

請願・陳情等の受理状況について

平成30年8月23日

ア 丹後・与謝の高校再編問題を考える会
等からの要望等について

丹後・与謝野高校再編問題を考える会

代表 近江 容子
東 好彦
太田垣 靖

請	願	書	0	件
要	請	書	1	件
	計		1	件



(報告)

丹後・与謝の高校再編問題を考える会等からの要望等について

丹後・与謝の高校再編問題を考える会から要望等が提出されましたので、下記のとおり報告します。

平成30年8月23日

教育長 橋本 幸三

記

- 1 提出日
平成30年7月31日
- 2 提出者
丹後・与謝の高校再編問題を考える会
- 3 要望内容
 - (1) 久美浜と網野、宮津と加悦谷での「学舎制導入」計画、弥栄と伊根と間人の「分校廃止・フレックス校新設」計画を見直し、それぞれ単独校として残すこと。
 - (2) 仮に計画に沿って再編を進めるにしても、これまで教育委員会が公聴会や懇談会、府議会等で保護者・住民に約束してきたことを完全に実現させること。
とりわけ以下のことについては必ず実現させること。
<全体に関わることとして>
 - ア 「効率性」ではなく「望ましい教育」をスタートラインにする。
 - イ 必要となる教員や予算について確保するなど、教育環境の維持・充実を図る。
 - ウ 公費でスクールバスを導入するなど、通学の利便性を向上させる。<特に学舎制に関わることとして>
 - エ 学舎間に上下関係はなく、それぞれが魅力ある教育活動を展開する。
 - オ 専門性の高い科目に、専門性の高い教員を配置し、両学舎に高いレベルの教育を保障する。
 - カ 部活動の合同実施に際し、移動手段の確保、経費負担に配慮する。
 - (3) 子ども達の将来と地域の在り方に重大な影響を及ぼす問題として、生徒や保護者、住民の願いに応じた検討をすること。
 - (4) 上記2の約束が実現できないようであれば、実現の目途がつくまでは再編を延期すること。

2018年7月31日

京都府教育委員会教育長 橋本幸三 様

丹後・与謝の高校再編問題を考える会

代表 近江 谷

東 好

太田垣 節



丹後通学圏における「高校再編」についての第3次要望書

貴委員会は、丹後地域の府立高校の在り方について、2020(平成32)年度からの宮津と加悦谷、網野と久美浜での「学舎制導入」計画と、弥栄と伊根と間人の3分校を廃止しての「定時制総合学科高校の新設」計画を進められています。

貴委員会はこれまで、再編問題で保護者・住民の理解が進んでいないことを認め、「分かりやすいパンフ等で説明を十分に行う」と表明されてきました。しかし、貴委員会がこの3月に小中学生の保護者に配布された「丹後から未来を創る」と題したパンフレットは、現在の各高校の特色はよく分かるものの、再編により期待される教育効果が全く示されておらず、何のために再編するのかなど、保護者・住民にとって大変分かりにくいものでした。

貴委員会が進められている高校再編計画は、丹後の子ども達に確かな学力を保障するものとは到底考えられません。また保護者負担が増え、地域づくりにとっても逆行する計画であると言わざるを得ません。

私たちは、「丹後にいらない高校はない」「丹後の最高学府の灯は消さない」「どの子にも後期中等教育の場を保障する」との立場から、以下の事を要望します。是非とも、意を汲み取っていただきますようお願い申し上げます。

記

- 1 久美浜と網野、宮津と加悦谷での「学舎制導入」計画、弥栄と伊根と間人の「分校廃止・フレックス校新設」計画を見直し、それぞれ単独校として残すこと。
- 2 仮に計画に沿って再編を進めるにしても、これまで貴委員会が公聴会や懇談会、府議会等で保護者・住民に約束してきたことを完全に実現させること。
とりわけ以下のことについては必ず実現させること。
＜全体に関わることとして＞
ア 「効率性」でなく「望ましい教育」をスタートラインにする。
イ 必要となる教員や予算について確保するなど、教育環境の維持・充実を図る。
ウ 公費でスクールバスを導入するなど、通学の利便性を向上させる。
＜特に学舎制に関わることとして＞
エ 学舎間に上下関係はなく、それぞれが魅力ある教育活動を展開する。
オ 専門性の高い科目に、専門性の高い教員を配置し、両学舎に高いレベルの教育を保障する。
カ 部活動の合同実施に際し、移動手段の確保、経費負担に配慮する。
- 3 子ども達の将来と地域の在り方に重大な影響を及ぼす問題として、生徒や保護者、住民の願いに応じた検討をすること。
- 4 上記2の約束が実現出来ないようであれば、実現の目途がつくまでは再編を延期すること。

以上